

《《 全国学力・学習状況調査の結果について 》》

令和6年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（木）に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。今年度は、中学校3年生においては「国語」「数学」の2教科での実施となりました。また例年どおり、生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。

本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にもお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載いたします。

1 本校の状況

本校の平均正答率は、「国語」「数学」ともに全国や山梨県と比較してほぼ同等の結果となりました。全国と山梨県の各教科の結果については次に示すとおりです。

	国 語	数 学
山梨県（公立）平均正答率	58	51
全国（公立）平均正答率	58.1	52.5



2 各教科の分析結果と改善のための方策

中学校学習指導要領では、それぞれ教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて整理されており、これら3つの柱は相互に関係しながら育成されるものとしています。このうち、「国語」「数学」それぞれの教科について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の2つの評価の観点に基づいて出題されています。



国 語

【傾向と課題】

平均正答率は、全国や山梨県と比較してほぼ同等の結果となりました。しかし、「知識・技能」の「我が国の言語文化に関する事項」、「思考・判断・表現」の「書くこと」において、それぞれを全国や山梨県と比較すると下回りました。このことから、本校の特徴として言語事項の知識・理解や、文章を書くことへの苦手意識を持つ生徒が多いということが言えます。特に言語事項は、学習指導要領の「知識及び技能」の資質・能力となっているので、基礎・基本の徹底という点で改善が求められます。

【改善のための方策】

- 「語彙の拡充」を目的とし、漢字の読み書きを意識した帯学習を行うなどして「漢字の読み書きの徹底」をする必要があります。また、漢字の読み書きに関しては定期的な小テストを行っていくことで読み書きの徹底に繋がっていきたいと思います。
- 他にも「辞書の積極的な利用」を行っていく必要があります。語彙の意味を理解するだけでなく、学習した語彙の適切な使い方を考えたり、短文を作ったりするなどして、生徒の語彙の拡充へと繋がっていきたいと思います。
- 言語文化に関しては、書写の時間を十分に確保するとともに、学習した内容を日々の漢字指導にも取り入れていきたいと思います。
- 自分の考えを文章で記述したり、言語活動でスライドなどを作ったりするだけでなく、「何を工夫したのか」など、考えを言語化できる機会を多く設けることで、書くことへの抵抗感を減らしてきたいと思います。



数 学

【傾向と課題】

平均正答率は、全国や山梨県と比較してほぼ同等の結果となりました。学習指導要領の領域では、「数と式」「図形」「データの活用」において全国や山梨県と比較してほぼ同等という結果となりましたが、「関数」においては、全国や山梨県を下回る結果となりました。また、全ての記述式問題において、無回答率が高いという特徴があるので、長い問題文をしっかりと最後まで読む粘り強さや、何を問われているのかをきちんと読み取った上で、筋道を立てて数学的表現を用いて説明する力が求められます。



【改善のための方策】

- 式の操作を根拠に基づいて進めることができていないことから、学んだ知識の定着が図れるように、家庭学習の充実を図るとともに、課題解決をするための見通しを持つことをさらに意識して取り組むことを目指していきます。
- 数学的表現を用いて説明する力の向上を図っていくために、単元の要所で理由や方法を言葉で説明する場面を設定していきます。



3 質問紙調査の結果と改善のための方策

【調査結果から】

全国や山梨県と比較して、「友達関係への満足度」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」などの対人関係については、全国や山梨県とほぼ同等の数値を示しています。

日常生活に関しては、「毎日の朝食の摂食」については全国や山梨県とほぼ同等の数値を示していました。しかし、「毎日同時刻の起床時間」「平日1日当たりの2時間以上のテレビゲーム（コンピュータやタブレット、スマートフォン等を含む）の利用」「平日1日当たりの学習時間やゲームの時間を除いた2時間以上のスマートフォン等を利用した動画視聴時間」というような基本的な生活習慣に関わる項目に課題が見られました。また、自己肯定感に関する項目や将来の夢や目標をもつ項目にも数値の低さが見られました。



学習に関わっては、“学ぶ意義や価値”を見い出すことができていないため、平日や休日の授業時間以外の学習時間において、「極端に取り組み時間が少ない、または全くしない」の数値が全国や山梨県と比較して高くなっています。また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で考え、工夫する」などの項目も低くなっていることから、学習に対して受け身になっている状況が見受けられます。しかし、1・2年生のときに受けた授業でのICT機器活用率は、全国や山梨県よりもかなり高く、ICT機器の活用により、「自分のペースで学習することができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」などの肯定的な意見も多くあります。



【改善のための方策】

上記の結果から、授業や学級活動、生徒会活動、部活動などの教育活動全体を通して、一人一人の生徒が「失敗を恐れずに、最後まであきらめずに物事を成し遂げる経験」や「自己有用感を得られる場面」を今後も設定し、自己肯定感の高揚化を図っていきたいと思います。

また、体系的なキャリア教育の一層の充実を図るとともに、生徒が将来の自分像をしっかりと描く中で、学ぶ意義や価値を理解し、学習意欲の向上や適切な進路選択につなげていきたいと思います。

学習に関わっては、上述したように授業でのICT機器活用率が全国や山梨県よりも高いことから、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業や家庭学習にICT機器をさらに効果的に活用していけるように工夫していきたいと思います。



家庭や地域とさらに連携を強める中で、これらの取り組みを推進していきたいと思っていますので、今後とも引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。